

こ いせき 小ブケ遺跡（第3次）

所在地： 津市安濃町内多（つしあのうちょううちだ）

発掘調査期間： 平成29年9月上旬～平成29年11月9日

発掘調査面積： 約216㎡（予定）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス](#) [小ブケ遺跡（第3次）発掘調査現場](#)

小ブケ遺跡の発掘調査が終了しました

小ブケ遺跡の発掘調査は、現地作業が終了しました。調査では、流路、溝、土坑などのほか、竪穴住居と思われるものも見つかりました。

流路は多数見つかりましたが、ほとんどは古墳時代前期（約1,700年前）に形成されたものと考えられます。流路内に堆積した土砂の様子を見ると、水の流れは急であったようです。この時期には、調査地付近では網目状に川が流れており、洪水が起きやすかったと推定されます。これらの流路からは、古墳時代前期の土器や木製品などが多量に出土しました。なかでも注目されるのは、稲穂と思われるものが、塊になって出土したことです。この時代の米が稲穂の状態で見つかることは稀で、大変貴重な発見といえます。

いっぽう、古墳時代後期（約1,400年前）から平安時代中期（約1,100年前）にかけては、流路がほとんど埋まり、その上から人工的な溝がいくつか掘られていることが分かりました。これらの溝には、激しく水が流れた様子はあまり見られません。この時期には土地が安定してきており、広い範囲で水田の開発が進んだのではないかと考えられます。

今後は、発掘調査の記録や出土した遺物の整理を進めていく予定です。その過程でも、新たな発見が期待できます。



流路から出土した稲穂の束



土器（壺）が出土した様子

<問い合わせ先>

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター調査研究1課

担当者：石井・渡辺

電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035